

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

1. 建物概要					
建物名称	江南区武道場・屋内多目的運動場				
建設地	江南区 茅野山3丁目地内				
用途地域	指定無し				
建物用途	スポーツの練習場				
竣工年	2014年11月 予定				
敷地面積	14,110.79 m ²				
建築面積	2,803.08 m ²				
延床面積	2,511.24 m ²				
階数	地上1F				
構造	RC造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2013年9月1日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{58}{43} = 1.3$		
S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★☆☆ B: ★★☆☆☆ C: ★☆☆☆☆					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 3.5		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 2.8		維持管理	Q2.1.3	4.5
			更新性	Q2.3.3	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 3.0		耐震・免震	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	2.6
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.3		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 4.0		建物の熱負荷抑制	LR1.1	3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.5
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 3.5		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	4.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 3.5		生物環境の保全・創出	Q3.1	3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	4.0
			まちなみ・景観への配慮	Q3.2	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
長寿命化の取組みについては、内外装材を維持管理が容易に行える材料を選定した。自然エネルギーの取組みは、積極的に採光利用・自然通風利用を図るため武道場・屋内運動場共に、ハイサイドライトを設置した。資源循環の取組みは、構造躯体と仕上材が容易に分別可能な計画と、敷地内舗装に再生骨材を利用する計画とした。水と緑を生かす取組みは、敷地内の空地を可能な限り確保することで、通風を確保した。また、積極的に敷地内を緑化することで、地表面温度の上昇を抑制するように努めた。					

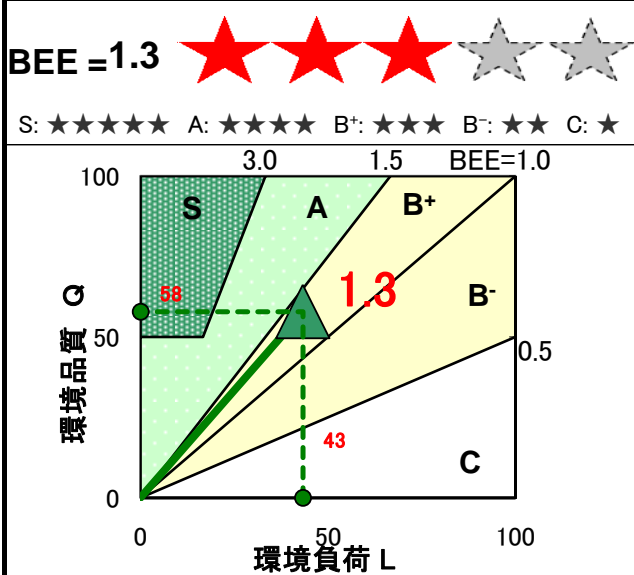
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE®新潟

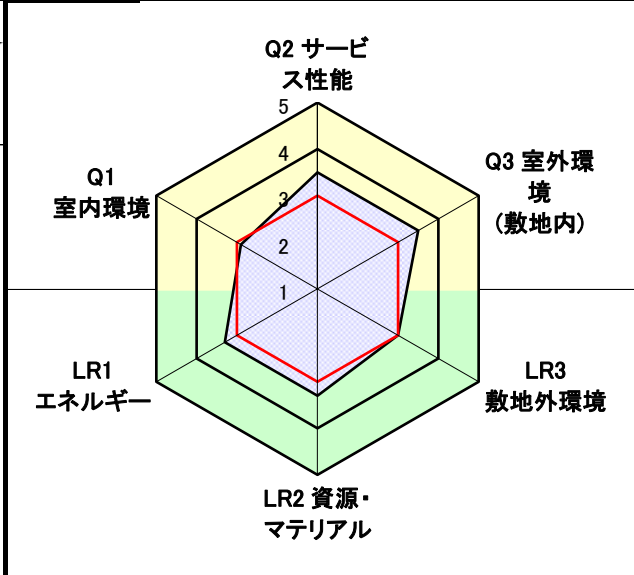
評価結果内訳

■使用評価マニュアル：CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築（簡易版）2008年版 使用評価ソフト：CASBEE新潟(v.1.3)

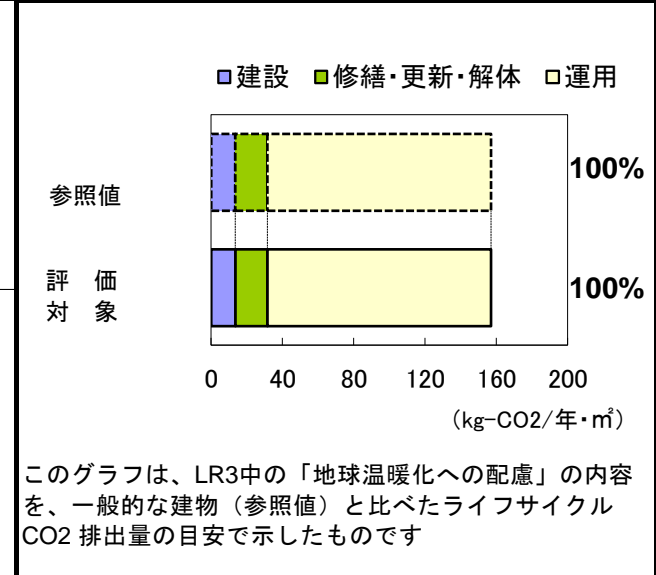
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



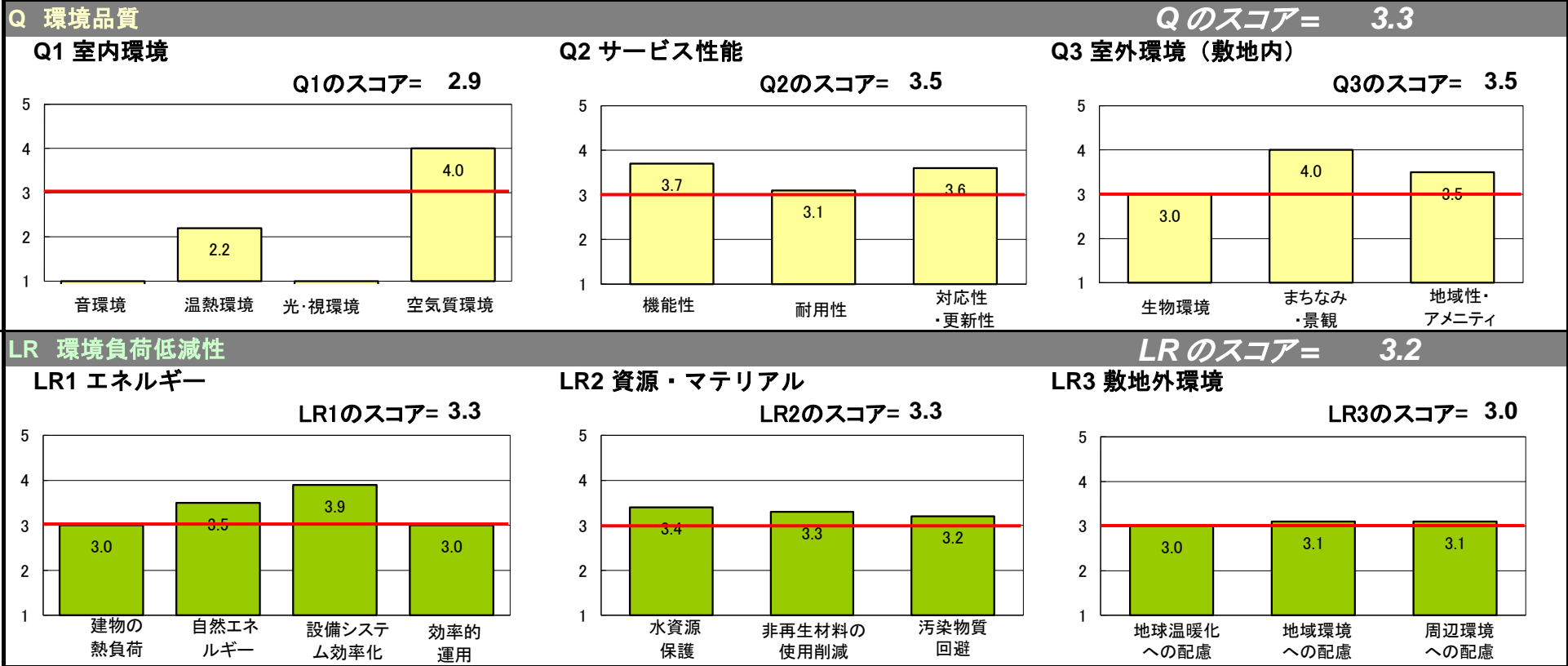
2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>計画建築物は、周囲を田園・住宅地に囲まれた市街地調整区域の一角に設計したスポーツの練習場である。広大な敷地の中には「アスパーク亀田」、「江南区文化会館」が隣接し、「街並み及び周辺環境との調和」と「隣接する施設との一体利用」を総合的なコンセプトとした。これをスポーツの練習場に要求される機能に付加し、快適な運動施設となるように目指した。</p>	<p>その他</p> <p>敷地内の植栽を可能な限り保存することで、この土地の風景を残し、長年利用者の絶えない愛着のある建築物となるように計画した。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>使用建材にはF☆☆☆☆を全面的に使用し、シックハウス対策を徹底した。また施設の性格上、管内を全面禁煙とすると共に、各運動部門には自然要素（自然採光・通風等）が取込めるように開口部を設定し、施設環境の向上を</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>各運動部門・附属諸室について、それぞれの使用用途に対応した内装材・照明設備を計画した。また内外装材には、維持管理が容易に行える材料を選定し、建築物の長寿命化に配慮した。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>敷地内の空地を可能な限り確保することで、通風を確保した。また、積極的に敷地内を緑化することで、隣接する既存施設との調和を図ると共に、地表面温度の上昇を抑制するように努めた。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>昼光の有効利用・自然通風の確保のため、各運動部門にはハイサイドライトを設置すると共に、照明設備を全てLED照明器具とすることで照明エネルギーの削減を図った。また一次エネルギーの消費量を抑制するため、設備の高効率化を図った。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>汚染物質含有材料の使用を回避するため、ハロン消火剤を一切使用しない計画とした。また、敷地内舗装等に再生骨材の使用、部材の再利用可能性向上への取組として、構造躯体と仕上材が容易に分別可能な計画、節水型衛生器具の選定等、省資源・リサイクル化に努めた。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>適切な量及び広さの駐車スペースの確保・導入路の位置等の検討を行い、周辺道路への交通負荷抑制に配慮した。また屋外照明を設けず、施設の適切な照明計画となるよう配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される